

学校給食の「黙食」に緩和の動き。「徹底」の表現を見直した地域も・・・

子どもにはどう影響する？ 実情を聞いた

特集は「ウィズコロナの日常」。

会話を控え、もくもくと食べる「黙食」。新型コロナウイルスの感染対策として学校給食でも取り組まれてきたが、新たな動きが出てきた。

宮崎県教育委員会は感染対策として、県立学校に「黙食の徹底」を求めてきたが、6月3日の通知でこの言葉を削除した。このほか、千葉県教育委員会では4月に、対面での黙食を認める方針を示している。

教育現場もウィズコロナにシフトしていく中で、コロナ前のような楽しい給食の時間へと戻りつつあるのだろうか。

子どもはストレスを抱えている・・・千葉県教委は「対面での黙食」認める

千葉県教委の担当者に聞くと、コロナ禍ではグループ活動などが制限されたこともあり、児童生徒にはストレスや運動不足の傾向もみられるという。

マスクの常時着用によるコミュニケーションの阻害も感じられ、こうした状況を少しでも解消できればと、対面での黙食を認めることにしたとのこと。

それまでの給食では授業と同じように、全員が黒板の方向を見て食べていたが、現在は飛まつが飛ばないように机同士の距離をとりつつ、向かい合って食べることもあるという。

もちろん、感染対策の徹底は前提で黙食自体は続けられている。会話をしたい場合は食事を終えてからマスクを着用して話すことになるとのこと。学校教育活動と感染対策を両立できるよう、できることから取り組んでいるようだ。

一方、宮崎県教委は「黙食の徹底」という言葉を見直したが、どう変化するのか。担当者に聞いた。

必ずしも黙食を行わないものではありません

黙食の見直しについて、宮崎県教委はどう考えている？

今回、宮崎県の警報レベル（レベル2→1）の移行に伴い、「黙食の徹底」を一律に行うことを見直したものであり、必ずしも黙食を行わないものではありません。文部科学省の衛生管理マニュアルに基づき、地域や学校の状況などに応じた適切な感染対策をとることが必要であると考えております。

黙食はいつからどのような理由で始まった？

2022年1月25日付で、県立学校あての通知文で「黙食の徹底」の表記を入れました。当時、県全域がまん延防止等重点措置の適用を受けたこと、学校現場での感染拡大がみられたことなどが理由です。

給食はどんな感じ？ 形式やルールはあるの？

食事前後の手洗いを徹底し、飛沫を飛ばさないよう（机を向い合せにしない、大声での会話を控えるなど）対応すること。弁当を持参する場合なども、飛沫を飛ばさないように席の配置や、距離がとれなければ会話を控えるなどの対応を工夫すること。食事後の歓談時には必ずマスクを着用することとしています。

ただ、実際の現場では、学校・地域の感染状況や学級の状況などで対応が異なります。

黙食を行わないということではなかったが、これからの給食について担当者に聞いてみた。

これからの給食どうなる？

これからの給食は具体的にはどうなるの？

給食などはこれまで同様、感染状況に応じた適切な感染対策を取った上で行っていくこととなります。なお、学校における感染対策は、文部科学省の衛生管理マニュアルに沿って対応することとしており、この点でこれまでと何ら変わりありません。給食の対応も大きく変わらないと考えております。

黙食の徹底を再び行う可能性はあるの？

病原性の高い新たな変異株が発生、拡大したり、県全域が再びまん延防止等重点措置の適用を受けるなどより強い対策を取る必要があると考えられる場合に「黙食の徹底」を一律に図る可能性はあります。

感染対策の徹底は簡単なことではないだろうが、学校生活での経験や思い出は子どもたちの健全な成長にも関わってくるはず。子どもたちのためにガイドラインが必要な教育現場でも悩ましい状況が続いているようだ。

(6月10日(金)FNNプライムオンラインネット)